

リプロダクションの現在

いま精子力を考える

企画にあたって

不妊症の原因の約半分が男性にある（男性不妊である）ことが、WHO から報告されています。また本邦の現状では、5～6 カップルに 1 カップルが児をもっていない（児をつくらない選択をしている場合を含む）。2018 年度の 25～45 歳の男性人口総数は 1625 万人であり、このうちの 2/3 がカップルを形成し挙児を行うとした場合、低位推計で $1625 \text{ 万人} \times 2/3 \times 1/6 \times 1/2 = 90 \text{ 万人}$ の男性不妊患者が存在することになります。

本特集では、このように多数の潜在患者さんがいても、普段一般泌尿器科医があまり積極的に治療に参画していない不妊症に関して、泌尿器科からのアプローチをお示しするために、精子の次世代を作る能力＝精子力に注目して専門家に解説いただきました。

まず始めに、不妊症をオーバービューするために、柴原浩章先生（兵庫医科大学産科婦人科学講座）に生殖補助技術（ART）の基礎知識を解説していただきました。森本義晴先生（HORAC グランフロント大阪クリニック）には本邦の ART の歴史に関して、さらに石原先生（埼玉医科大学産科婦人科学）には本邦の ART の成績に関して、諸外国との比較を交えて解説していただきました。

本特集の中心課題である「精子力」に関しては、その概念と測定法について岡田が解説いたしました。臨床問題となる精子力と加齢の関係については、岩端威之先生（獨協医科大学埼玉医療センター・リプロダクションセンター）に解説していただきました。また、男性不妊に対する精索静脈瘤の手術や薬物治療が精子力に与える影響を辻村晃先生（順天堂大学医学部附属浦安病院泌尿器科）に、生活習慣や感染症が精子力に与える影響を湯村寧先生（横浜市立大学附属市民総合医療センター・生殖医療センター）に解説していただきました。これらに加えて最新の話題として、スマートフォンによる精子セルフチェックについて、開発者の株式会社リクルートライフスタイルの入澤諒様に解説していただきました。

精子力改善の新技术として期待される水素の応用については、中田久美子先生（山下湘南夢クリニック・高度生殖医療研究所）に、精子処理方法や精子運搬方法で精子力を向上させる新しい器具については、辰巳賢一先生（梅ヶ丘産婦人科）とミツボシプロダクトプランニング株式会社の向井徹様に解説していただきました。

いずれの項目も不妊臨床に不慣れである泌尿器科医を対象に執筆していただきましたので、これから男性不妊について知識を深めようと考えておられる諸先生方、ならびに不妊症の臨床を行っているものの男性不妊にあまり興味がなかった産婦人科の先生方にも、最適な解説書に仕上がっております。

本特集の内容が、本邦における今後の不妊症治療成績の向上に資することを期待しております。

獨協医科大学埼玉医療センター
リプロダクションセンター

岡田 弘